



この号の内容

特集：平成26年度 WELCOME研修医の会

- ① ご挨拶
- ② 研修医の皆さんからのメッセージ
研修生活を振り返って
iPadの活用と川崎医大での研修生活
iPadをいただいて

岡山県医師会

URL

<http://www.okayama.med.or.jp/index.html>

E-mail

oma@po.okayama.med.or.jp

特集：平成26年度 WELCOME研修医の会

次 第

【社会保険医療担当者集団指導】

コーヒーブレイク

【第一部】

挨拶

岡山県保健福祉部

部長 伯野春彦 先生

岡山大学病院 院長 横野博史 先生

川崎医科大学附属病院

院長 園尾博司 先生

特別講演

「医療倫理—研究不正を考える—」

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

生命倫理学分野 教授 粟屋 剛 先生

ガイダンス「医師の職業倫理」

【第二部】

レセプション

岡山県医師会 会長 石川 紘

私は約 3,000 名の医師が限なく加入している岡山県医師会の代表（会長）です。今回の初期研修で岡山に初めて居住することになった方々も多々おられることでしょう。兎に角、岡山県は地震を始め災害の非常に少ない処で有名です。この様に安全な処で 2 年間の初期研修を積まれることはラッキーなことと思います。又、食べ物、特に瀬戸内の小魚はとて美味で、これに地酒も旨く、全く堪えられないようなと思います。

又、やっと最難関の国試をパスし、2 年間のプライマリ・ケアを中心とした研修を行うのには条件も整った場所でもあります。しかし、2 年の間、勉強一辺倒ではいけません。社会性を身に付けると共に、職業として生涯を共に生きていくことになるだろう友達を沢山作ることが出来るのもこの 2 年間です。この機に出来た友達は一生の付き合いになる筈です。

同時に健康のため身体を鍛え、ライフワークとなるような趣味も見つけて下さい。これら全てがこの期間に与えられた特権です。そして、運があればこの機に良い伴侶を見つけて岡山県に定住し、地域医療に貢献して頂くことになればそれこそ最高です。本日の行事の最後にはレセプションを用意していますので存分に楽しんで下さい。

本日はようこそお出で下さいまして有難うございました。

ご挨拶

岡山県保健福祉部 部長 伯野春彦 先生



本日はこのように盛大に WELCOME 研修医の会が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

また研修医の皆様におかれましては、この岡山の地で医師としてのキャリアをスタートされますことを、県を代表しまして心より歓迎申し上げます。

先ほど少し石川先生の方からございましたが、岡山の医療というのは本当に素晴らしいと心より思っております。皆様が岡山の地を選んだということも、おそらく岡山の医療が魅力的だからだと思います。私は実は生粋の岡山人ではなく、生まれ育ちは関東の方なのですが、岡山に来て思ったことは、本当に岡山の医療というのは素晴らしいということです。まず、基幹的な医

療機関においては、先進的な、高度で専門的な医療を行っておりますし、また、中小病院の方々、かかりつけ医の方々においては患者さんに寄り添った全人的な医療が行われているという場所だと思います。岡山は医療先進県と呼ばれておりまして、そのような所で研修ができるということを是非誇りに思っていたら、研修に励んでいただければと思います。

中国の諺で、「下医病を治す、中医人を治す、上医国を治す」という言葉がありますが、みなさんは、もちろん最初は病気を治そうということで、病気の診断・治療を一生懸命されるのがベースだと思いますが、それだけではなく、その患者さんの生活背景というのをしっかり見ていただいて、人をよく見て治していただきたいと思います。さらに経験を積んで国の制度へ文句を言うくらい、国を治そうという上医になっていただきたいと思います。

これを期待しております。

岡山県医師会研修医登録会員制度への
申し込みは

<http://www.okayama.med.or.jp/topcontents/kenshuitouroku/> から



岡山大学病院 院長 榎野博史 先生

皆様、ようこそWELCOME研修医の会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。またこのようなすばらしい会を主催してくださいました岡山県医師会、NPO法人岡山医師研修支援機構の皆様方に厚くお礼申し上げます。今回で2回出席させて頂いておりますが、昨年よりも数多くの研修医の先生方にご出席くださりまして大変感激しております。一昨日、岡大の研修医のみなさんに研修医として大切な5Pについてお話ししました。1つ目はperspiration。研修医ですので、これからまだまだ学ばなければいけないので、コマネズミのように額に汗して働くということでperspiration。昔エジソンが「発明は99%のperspirationで、1%がinspirationだ」と言いましたが、そのperspirationです。2番目はpassion。やはり情熱です。一生懸命やっているということが大切です。それから、物事は正確に覚えなければとんでもない間違いになるので、precise。そして、各研修病院に来たからにはプライドを持ってということでpride。

研修が始まると日常業務を終えるだけで非常に大変だとは思いますが、志は是非、Physician scientistになっていただきたいと思っております。Physicianというのは、狭い意味では内科医ですが、医師全体を指します。要するに「科学をする医師」になっていただきたいと思っております。

実は岡山大学病院は昨年、臨床研究中核病院にならせていただきました。研修医の先生方、これから自分でいろんな薬を処方しますが、その薬が本当に効いているかどうかということを科学的に考えることも臨床研究と言えますし、なぜそのような病気が起こるのかメカニズムを考えたり、新しい治療や薬を開発する、そういったことを助けるのが臨床研究中核病院です。

臨床で疑問に思ったことを科学する、大学院に行って基礎研究、臨床研究、そういったscienceを学ぶことも非常に重要ではないかと考えております。岡山県というのは最も恵まれた県でして、人口あたりにして最も大学病院が多いです。岡大病院もありますし川崎医科大学病院もありますし、是非県内の良い大学をご使用いただけたらと思っております。

岡山には2つの医科大学をはじめ皆様が研修をされているすばらしい病院が数多くあります。そのすばらしい病院が横の連携をとって、例えば世界各国から患者さんが来るポストンや、移植最先端のピッツパークのように、「病気になったら岡山に行けば良い」というような所にしていけたらという構想を持っております。そのためには今日のような会で横の連携をよくすることが大切だと思っております。みなさまには、色々学んでこの岡山県で研修をし、そして横の連携を深めていただけたらと思っております。



川崎医科大学附属病院 園尾博司 先生

研修医の皆さん、本日はおめでとうございます。本日は153名の非常にたくさんの方が集まってくださって、我々も大変嬉しく思っております。岡山県もこういった若い人たちに支えられてこれから医療をやっていただくということで、岡山県民にとっても非常に嬉しいと思っております。

今満開の花が咲いておりますが、皆さんは今、花の苗が植わったところだと思います。

花に喩えて言いますと、花というのは、特に桜を見ると分かりますが、誰が教えたわけでもありませんが時を間違えないですね。私たち医師としても時を間違えない、タイミングを間違えないというのは非常に大事なことでと思います。手術があったり、患者さんに説明をしたりする時に遅れて行くと、それでは全く信頼感が生まれてこないですね。特に時間をきっちり、タイミングをきっちりと、患者さんの本当に調子の悪い時にいいタイミングでそこにいるということが大事かと思っております。やはり信頼関係が医療の中で一番大事なものだと思っておりますので、時間に遅れないように時間を守る、そして物事のいいタイミングを見極める。特に手術の後はそうなりますが、きっちとした所にはいないといけません。所在を明らかにすることも医師として非常に大事なことでございます。どこに行ったか分からない、連絡がつかない、というのは本当に一番信頼感が育たないですね。それで「あの先生は駄目だ」という風に言われてしまうと思っております。

また花に喩えて言いますと、花というのはどこに植えてもちゃんと一生懸命そこで育てて花が咲きますよね。どんな環境においても、皆さんも花と同じようにその場で不平不満を言わずに頑張ってください。そういう風に頑張れば、必ずきれいな花が咲きます。それぞれ花の形は違うかもしれませんが、やはり自分の持ち味を活かした花を咲かせてほしいなと思っております。本物の医者になってください。私は臨床の第一線を退いた今でも、本当に自分はまだ本物の医師でないかと思っております。そのくらい本物になるということは難しいことなのですが、それに少しでも近づいていただきたいと思っております。

本物になる人間に何が大事かというと、やはりそこに時間をかけないといけません。要領だけでいくとやはり深いものが何も生まれてこない。自己実現と言いますが、大きい目標を持ってそこに近づいてもらいたいと思っております。少し背伸びしていくくらいが、発展していくのではないかと思います。大きな目標を持って、それを達成していくように頑張ってください。

研修医の皆さんからのメッセージ

研修生活を振り返って

病院での研修が始まって早4ヶ月が経とうとしています。医学生での実習と異なり、患者さんからは一人前の医師として扱われ、一方で力不足なことが多すぎて、日々勉強に励んでも時間が足りないという生活に戦々恐恐としながら、外来業務に病棟業務にと多忙な日々を過ごしています。診療のやりがいと充実感は溢れんばかりに感じますが、患者さん、看護師さんからの質問に冷や汗をかきながら返答することへの責任感と恐れもまた、ひしひしと感じます。薬の投与間隔、量や方法など、学生の時には想像もしなかったようなことに気付かされ、注射を処方しては薬剤師さんに量や方法の確認をし、薬1つをオーダーするのでも一仕事です。入院患者さん一人とっても、国家試験の知識を総動員して鑑別診断からどの検査をするか、治療や食事内容、薬の副作用、点滴の薬剤・流速など、考えることは多岐にわたり1日があっという間に過ぎ去ります。

岡山大学病院 初期研修医 大村大輔 先生

同時に、気付かされることもとても多いです。例えば「医療チームの1人1人が大きな役割を持つ」こと。医師以外の医療従事者の方々が治療方針を実際に実現し、提供しているのだということを目の当たりにします。そして、「先輩医師の豊富な経験や知識」。自分が考えもつかなかったことを教えられるとその凄さに脱帽するばかりです。

iPad miniは主に日常診療、薬剤についての書籍を活用し、学びとなることをメモして1冊のオリジナル手帳のように使用しています。学会・講義ではスライドを撮り、その下に説明を書き込むなどしてその場限りの経験とせずに振り返ることのできるように努めております。白衣におさまるサイズなので使い勝手も良く、便利に活用させていただいております。

残り20ヶ月程の研修生活ですが、知識、技術のupdateを怠ることなく今後も頑張っていきたいです。

iPad の活用と川崎医大での研修生活

川崎医科大学附属病院 研修医 1年 佐藤 悠 先生

はじめまして、私は川崎医科大学出身、川崎医科大学附属病院研修医 1年目の佐藤悠です。

まず始めに今回WELCOME研修医の会という研修医の交流の場を設けて頂いた岡山県医師会、NPO法人岡山医師研修支援機構に感謝しています。ありがとうございます。

WELCOME研修医の会では岡山にいる同期の研修医と交流し、それぞれの病院で研修する意気込みやみんなの雰囲気を感じ、これからがんばっていこうと改めて感じさせられました。また私自身は大学に残り研修する立場でしたので、他大学出身の同期と交流でき大変新鮮な気持ちになりました。

そんな心おどる気持ちの中、じゃんけん大会が開催され、見事勝ち進ませていただきまして景品としてiPad、しかもRetina displayモデルという最新機を景品として手にすることができました。

現在、私のiPadには診断基準や典型画像が数十枚保存されており、病棟では自分のスマホと連携させネット環境下で使用し大活躍しています。これからも活躍していくと思います。

さて、話は変わりますがここで今の私の研修医生活について少し紹介させていただきます。

川崎医大での研修は、まだ4ヶ月目ですが大変充実したものになっていると感じています。今私が大事にしていることは、モーニングケースカンファレンスです。これは川崎医大で毎週火曜日朝8時に行われており、1年目の研修医が現在ローテートしている科で実際に経験した症例について発表するもので、医大5年生、研修医2年、指導医の先生方も多く参加して下さり、毎週満席になります。症例発表では実際患者を目の当たりにしたとき、どこに注目して病名にたどり着いたか、病棟で困っていることへの対処法についても検討されます。また、これを研修医目線で話してもらえ、周りは同期なので質問しやすい環境という点でも気に入っています。

最後になりますが、これからも研修をまじめにやって、2年後何でも来いと言えるようなDr.を目指し日々学んでいきたいと思っています。



iPad をいただいて

川崎医科大学附属病院 研修医 1年 近藤 恵 先生

WELCOME研修医の会を設けていただいた先生方、iPadをプレゼントしていただきありがとうございました。

数多くの研修医の方々を差し置いてiPadをゲットした私ですが、最初のじゃんけんは理事長が見える状況ではなかったので勝ったのは完全なる運でした。しかし、その後は勝ち残った人が前に進んでいく形式だったので、前に出ればじゃんけんの手が振り出される直前に、次に何が出るか候補を絞ることができると考え、前に前に進みました。勝ち残って前方に進んでいくうちに、理事長の左側に位置していました。理事長は皆に見えやすいように、右手を後方から前方へ出す形で手を出されており、後方から振り出す瞬間の手の開き具合で理事長の出す手を予想しました。もちろん確実なものではありませんし、チョキとパーの判別はほぼ不可能でしたが、それでも通常より勝つ確率が高くなることは確かです。その結果、1回のあいこ（全員があいこだったため無効）を除き全て勝つことができました。

さて悪ふざけはここまでにして、肝心のiPadの使用用途ですが、私は主に医療現場で資料を参照する時に使用しています。もともと教科書の電子版を入手していたため、iPadに取り込み、うろ覚えな知識の確認などに随時使用しています。複数の本を手軽に持ち歩けるため、疑問を感じた時にすぐ調べることができます。また、薬剤の適正使用方法や疾患の治療指針などインターネットからダウンロードできるものを取り込む他、インターネットで医学用語を調べ、臨床に役立てるとともに、自分の勉強に役立てています。

研修医としての生活は、一言でいうと“やりたいことが多すぎて時間が足りない”に尽きます。研修医となってからは、国家試験に向けたこれまでの勉強にプラスして実践的な知識が必要となり、もっともっと本や文献を読む必要性を感じました。研修医として働き始めてからはまとまった時間を確保することが難しいため、いただいたiPadをこれからも有効に役立てたいと思います。



第13回 Doctor's Career Café in OKAYAMA

「第5回 D+Muscat」

平成26年4月19日 ⊕ 無事終了いたしました。

■ Session 1

「寛解を目指すアトピー性皮膚炎の外用療法

How to “tight control”」

大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター
皮膚科主任部長 片岡 葉子 先生

■ Session 2

D+Muscat Discussion

Part 1 トピックス

Part 2 病診連携のために

第14回 Doctor's Career Café in OKAYAMA

メディカルカフェ in かわさき「女性医師を応援します！」

●日時：平成26年9月4日 ⊕ 18:20～19:30
(最大20時まで)

●場所：川崎医科大学校舎棟8階ラウンジ

●プログラム：

1) 「医師として生き生き働こう」(20分)

岡山県医師会理事(川崎医大卒) 神崎 寛子 先生

2) 少人数に分かれての自由懇談(50分)

軽食をご用意します

岡山県医師会会員の皆様、勤務医の皆様
研修医・学生の皆さんも、多数お越し下さい。
男性医師の参加も歓迎します！

主催 岡山県医師会 企画運営 川崎医科大学

共催 日本医師会 後援 川崎医科大学同窓会

☆託児について：ご希望の方は8月22日(金)までに下記へ
お申し込み下さい。

お問い合わせ先：

川崎医科大学ワークライフバランス・ワーキンググループ

川崎医科大学同窓会会長 森谷(もりや) 卓也

電話 086-462-1111(代表)

電子メール tmoriya@med.kawasaki-m.ac.jp

お知らせ

学会出席時に託児施設を
ご利用下さい

岡山駅前の託児施設に学会出席中の託児を特別料金でお願いしています。利用には岡山県医師会保育支援事業への申し込みと託児施設への事前予約が必要です。詳しくは岡山県医師会へお問い合わせ下さい。

岡山県医師会主催の教育講座等への出席の際の会場での無料託児は従来どおり行っております。ご利用下さい。

詳細は <http://www.okayama.med.or.jp/topcontents/joseishi/youkou.html>

託児利用者からの声

今回、初めて岡山県医師会様を通じて託児を利用させていただきました。事前に医師会様と保育施設様からメールやお電話で詳しい説明があり、お電話での対応は非常に丁寧な印象を受けました。事前に段取りができていたため当日はスムーズに預けることができました。保育内容の報告を書いていただけるのも仕事終わりの母親として一番楽しみにしていることです。また是非利用させていただきます。この度はありがとうございました。

(S.S)

女性医師なんでも相談窓口

- 育児に関する相談
- 子どもの保育施設、支援に関する情報を知りたい
- 家庭と育児を両立したい
- 休んでいただけ復帰したい



氏名、医籍登録年、診療科をご記入の上、ご相談ください。

(連絡先 [✉ omajoi@icloud.com](mailto:omajoi@icloud.com))

詳細は

<http://www.okayama.med.or.jp/topcontents/joseishi/soudan/index.html>

■ 表紙の写真「夏の記憶」

撮影者 岡山大学医学部医学科3年

鹿田写真部 部長 竹内 明さん

編集後記

梅雨も明け、暑い毎日が始まりました。研修医の皆さんは事故や健康に留意されこの暑い時季を乗り切って、研修に励んでください。医学生の皆さんは学生の特権、夏休みを思う存分楽しんでください。

Good Doctor vol.10は4月に開催しました「WELCOME研修医の会」の特集号です。県医師会報では掲載できなかった伯野春彦岡山県保健福祉部長、榎野博史岡山大学病院長、園尾博司川崎医科大学附属病院長からのご挨拶をお届けします。伯野保健福祉部長からは、医療先進県と呼ばれる岡山で研修ができることを誇りに思うようにと、榎野岡山大学病院長からは、「科学する医師」を目指すようにと、園尾川崎医科大学附属病院長からは、大きな目標を持ちそれ

を達成させるべく努力するようにと、メッセージをいただいています。また、大じゃんけん大会でiPad miniを獲得された3人の研修医の皆さんに研修生活を紹介していただきました。手にしたiPad miniは活躍しているのでしょうか？大活躍しているようですよ。

9月4日(木)には川崎医科大学で第14回 Doctor's Career Café in OKAYAMA メディカルカフェ in かわさき「女性医師を応援します！」が開催されます。多数のご参加をお待ちしています。

いろいろな科の先生より地方会での託児がどうかならないかとご相談を受けます。全ての地方会に託児併設のお手伝いをするのは無理ですので、契約の託児施設を特別料金で利用できるよう紹介させていただいています。施設は桃太郎大通りに面したドレミの街にあります。事前の申し込みが必要ですので、岡山県医師会へお問い合わせください。(神崎)